

PRESS RELEASE  
報道関係者各位

2025年6月12日  
株式会社 神戸デジタル・ラボ

Web開発の現場ですぐに使える「セキュア開発チェックリスト」を無償公開  
開発段階からセキュリティ対策を組み込む文化の醸成を支援

情報セキュリティサービスやシステム開発を提供する株式会社神戸デジタル・ラボ（兵庫県神戸市中央区、代表取締役社長 玉置慎一、以下 KDL）は、6月12日、当社の開発現場で活用する「セキュア開発チェックリスト」を無償で公開しました。

1ページ		2025/6/10版						
<h3>セキュア開発チェックリスト</h3> <p>システム開発現場における、セキュア開発のためのチェックリストです。</p> <p>開発するシステムにより対応すべき事項が異なるため、すべてに対応することを目的とするものではなく、本来対応すべき事項の抜け漏れを軽減する事を目的としています。</p> <p>本チェックリストは、以下のガイドラインを参照して作成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>OWASP Application Security Verification Standard (OWASP ASVS)</li><li>OWASP Mobile Application Security Verification Standard (OWASP MASVS)</li><li>OWASP Top 10 Proactive Controls</li><li>OWASP Cheat Sheet Series</li></ul>								
<table border="1"><tbody><tr><td data-bbox="346 1230 557 1320">一般</td><td data-bbox="557 1230 1240 1320">1. 脆弱性診断を実施し、リスクの深刻度・システムの重要性・運用ポリシーに応じて対応し、再診断を受けている 2. SAST (Static Application Security Testing) 診断を受けており、必要な指摘はすべて対応している</td><td data-bbox="1240 1230 1271 1320"></td></tr><tr><td data-bbox="346 1320 557 1621">認証</td><td data-bbox="557 1320 1240 1621">1. ユーザを変えて認証機能のテストを実施している 2. ログイン成功時および失敗時に、システムがログを記録している 3. 認証にはCognitoなどの信頼性の高い認証サービスを使用している 4. 認証サービスを使用していない場合は、フレームワークの標準機能を使用している 5. 一定回数認証に失敗した場合、ロックアウトする 6. 多要素認証を設定できる 7. パスワードはハッシュ化されて保存されている 8. パスワード変更、普段と異なるIPアドレスからのログイン、アカウントロックアウト時にユーザーと管理者に通知される 9. ユーザのパスワードまたは権限が変更された際に、操作を実施したユーザーを特定できるログが記録される</td><td data-bbox="1240 1320 1271 1621"></td></tr></tbody></table>			一般	1. 脆弱性診断を実施し、リスクの深刻度・システムの重要性・運用ポリシーに応じて対応し、再診断を受けている 2. SAST (Static Application Security Testing) 診断を受けており、必要な指摘はすべて対応している		認証	1. ユーザを変えて認証機能のテストを実施している 2. ログイン成功時および失敗時に、システムがログを記録している 3. 認証にはCognitoなどの信頼性の高い認証サービスを使用している 4. 認証サービスを使用していない場合は、フレームワークの標準機能を使用している 5. 一定回数認証に失敗した場合、ロックアウトする 6. 多要素認証を設定できる 7. パスワードはハッシュ化されて保存されている 8. パスワード変更、普段と異なるIPアドレスからのログイン、アカウントロックアウト時にユーザーと管理者に通知される 9. ユーザのパスワードまたは権限が変更された際に、操作を実施したユーザーを特定できるログが記録される	
一般	1. 脆弱性診断を実施し、リスクの深刻度・システムの重要性・運用ポリシーに応じて対応し、再診断を受けている 2. SAST (Static Application Security Testing) 診断を受けており、必要な指摘はすべて対応している							
認証	1. ユーザを変えて認証機能のテストを実施している 2. ログイン成功時および失敗時に、システムがログを記録している 3. 認証にはCognitoなどの信頼性の高い認証サービスを使用している 4. 認証サービスを使用していない場合は、フレームワークの標準機能を使用している 5. 一定回数認証に失敗した場合、ロックアウトする 6. 多要素認証を設定できる 7. パスワードはハッシュ化されて保存されている 8. パスワード変更、普段と異なるIPアドレスからのログイン、アカウントロックアウト時にユーザーと管理者に通知される 9. ユーザのパスワードまたは権限が変更された際に、操作を実施したユーザーを特定できるログが記録される							
〈チェックリストのイメージ〉								

■チェックリスト公開の背景

当社のシステム開発現場では、2017年より開発の上流工程から脆弱性を作り込まない「セキュア開発」に取り組み、自社の開発者全員を対象に毎月「セキュア開発トレーニング」を実施しています。「セキュア開発トレーニング」は、開発時に実践すべき重要なセキュリティ項目を網羅していますが、開発現場から、「プロジェクトの進行中は非常に多忙で、都度トレーニング資料を参照するのは手間がかかる」という声が寄せられていました。

本チェックリストは、こうした現場の課題に対し、プロジェクトの進行中も無理なく参照し

てトレーニング内容を実務で活かせるよう設計・作成したものです。

このたび、日本のシステム開発現場におけるセキュア開発の普及に貢献すべく、本チェックリストを無償で公開しました。

### ■チェックリストの内容

本チェックリストは、アプリケーションのセキュリティを高めるために提供される、OWASP (Open Worldwide Application Security Project) のセキュリティ標準および実践ガイド群 (※) を参考に、作成しています。当社が社内外に提供する「セキュア開発トレーニング」の項目を網羅しており、セキュア開発実現のための簡易ツールとしてご活用いただけます。

なお、開発するシステムにより対応すべき事項が異なるため、本チェックリストは、すべてに対応することを目指すものではなく、本来対応すべき事項の抜け漏れを軽減することを目的としています。

※対象の OWASP セキュリティ標準および実践ガイドは下記のとおりです。

- ・ OWASP Application Security Verification Standard (OWASP ASVS)
- ・ OWASP Mobile Application Security Verification Standard (OWASP MASVS)
- ・ OWASP Top 10 Proactive Controls
- ・ OWASP Cheat Sheet Series

### ■チェックリストの入手方法

以下 Proactive Defense サイトの「セキュア開発チェックリスト」よりダウンロードしてください。

<https://www.proactivedefense.jp/documents>

近年のシステム開発では、マイクロサービスや API 連携、OSS (オープンソースソフトウェア) の活用、クラウド利用の拡大に加え、アジャイルや DevOps といったスピード重視の開発手法が広く普及しています。こうした変化に伴い、セキュリティを考慮した開発手法の重要性がますます高まっています。本チェックリストが、みなさまの安心安全な開発の一助となれば幸いです。

■情報セキュリティサービス「Proactive Defense」



情報セキュリティに関するコンサルティング、脆弱性診断、デジタルフォレンジック、トレーニングなど、予防対策から事故対応まで一気通貫で提供する、神戸デジタル・ラボの情報セキュリティサービスです。

◎情報セキュリティサービス「Proactive Defense」公式サイト

<https://www.proactivedefense.jp/>

【会社概要】

会社名：株式会社 神戸デジタル・ラボ

代表者：代表取締役社長 玉置慎一

所在地：〒650-0034 兵庫県神戸市中央区京町 72 番地 新クレセントビル

設立：1995年10月

資本金：5,000万円

従業員数：177名（2025年6月1日現在）

URL：<https://www.kdl.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 神戸デジタル・ラボ

デジタルビジネス本部 原田（はらだ）、松丸（まつまる）

[proactivedefense-support@kdl.co.jp](mailto:proactivedefense-support@kdl.co.jp) / 電話：078-327-2280

※テレワーク推進企業です。メールでご連絡いただけますと幸いです。

取材など隨時対応しますので、お気軽にお問い合わせください。